

第12回

## オランダ人が見た寛永行幸

講師 フレデリック・クレインス氏 (国際日本文化研究センター教授)

寛永行幸については、書物や絵巻などの記録が残されていますが、日本人だけではなく、その場に居合わせたオランダ人が書いた日記も存在します。外国人ならではの視点で描写された寛永行幸とは——。この日記を読み解くと、まだ知らない寛永行幸の一面が見えてきます。

「寛永行幸図巻」(国際日本文化研究センター蔵)

2026年 7月5日 日

14:00(開場13:15、終了予定15:30)

参加費：無料

会場：京都府立 京都学・歴彩館 大ホール  
京都市左京区下鴨半木町1-29 (地下鉄「北山」駅1・3番出口より徒歩約4分)

定員：400名程度(事前申込制)

申し込み先：Peatix 申し込みは、5月15日(金)正午より

<本イベントに関するお問い合わせ> 実行委員会事務局(京都府文化政策室)  
info@kaneigyoko400.jp TEL.075-414-5140 (土日祝除く 10:00~17:00)

華麗なる大行列を見物する観衆の中に、一人のオランダ人がいた。東インド会社上席商務員コンラート・クラームルである。なぜ彼が京の都に滞在し、寛永行幸を目撃することになったのかに触れながら、近世初頭の日蘭関係を解説する。またクラームルの目に行幸がどのように映り、その後、ヨーロッパにどのように伝わっていったのか。世界から見た日本、寛永行幸をひもとく。

フレデリック・クレインス氏  
(国際日本文化研究センター教授)

1970年、ベルギー生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。博士(人間・環境学)。国際日本文化研究センター教授。専門は戦国文化史、日欧交流史。著書に『十七世紀のオランダ人が見た日本』(臨川書店、2010年)、『戦国武家の死生観 なぜ切腹するのか』(幻冬舎新書、2025年)などがある。2024年にエミー賞作品賞を受賞したドラマ『SHOGUN 将軍』の時代考証を務めた。

## 寛永文化講座とは？

2026年は、寛永3(1626)年に後水尾天皇が二条城に行幸されてから400年の節目の年です。寛永時代は能、狂言、茶の湯といった文化が隆盛し、市中にいくつもの“サロン”が形成されました。このサロンを舞台に文化が洗練され、多くの人々をひきつけ、現代へとつながることから「寛永は文化の故郷」といわれています。「寛永文化講座」は、この時代に花開いた文化の特質をさまざまなジャンルの専門家に語っていただき、多角的な視点から寛永文化の総合性や現代における意義を考えていこうというものです。

お申し込みはこちら



「寛永行幸四百年祭」を応援したい！

実行委員会では、寄付などを募集しています。皆さんも歴史に参加しませんか。

詳細はこちら

## 基金で応援

京都文化交流コンベンションビューロー  
「寛永1626基金」で  
寄付を募集しています。

## ふるさと納税で応援

京都府の  
企業版ふるさと納税による  
寄付を募集しています。

## 連携・関連事業で参加

「寛永」をテーマにした独自事業や関連行事を  
実施していただける企業・団体を募集しています。  
お問合せ：info@kaneigyoko400.jp

主催 寛永行幸四百年祭実行委員会  
https://kaneigyoko400.jp/

共催 一般社団法人Living History KYOTO

最新情報は  
公式HP・SNSで  
チェック！

公式HP



FACEBOOK



Instagram



X